

2016.7.1 第155号 **ながの**
社会福祉士会 NEWS

■発行：公益社団法人長野県社会福祉士会
 会長：三村仁志
 ■編集：広報編集委員会

■事務局：〒380-0836
 長野市南県町685-2 長野県食糧会館 6 F
 ■発行部数：2,200部

■TEL：026-266-0294
 ■FAX：026-266-0339
 ■E-mail：info@nacsww.jp
 ■HP：https://nacsww.jp/

目次

■平成28年度福祉まるごと学会	1	■特集「新入会者さん、いらっしゃ〜い」	6〜7
■福祉まるごと学会 分科会	2	■信州ぐるっと!!	8
■福祉まるごと学会 記念鼎談	3	■私の地区の学習会	8
■長野県社会福祉士会の変遷	4	■今後の予定・編集後記	8
■委員会紹介〜広報編集委員会〜	5		

Nagano Association of Certified Social Workers

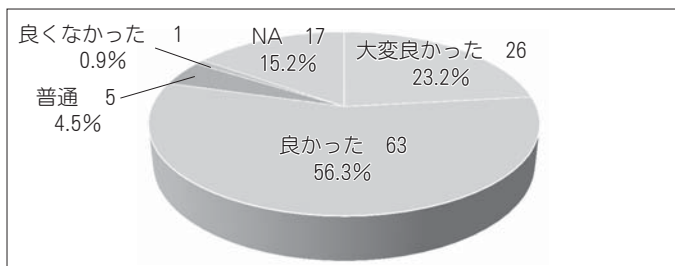
平成28年度 福祉まるごと学会
記念鼎談「社会福祉士・社会福祉士会の未来を語る」

公益社団法人 長野県社会福祉士会

平成28年度福祉まるごと学会は、県下から182人の参加者を迎え、長野大学で盛大に開催された。学会分科会は、高齢者、障がい者、児童・教育、地域福祉、権利擁護の5分科会で合計20人の会員が実践報告等を行った。その後、公益社団法人移行・記念鼎談が『社会福祉士・社会福祉士会の未来を語る』をテーマに行われました。(詳細2〜3頁)

アンケートから① (実践報告)

- 自分が関わっている分野でない実践報告は学ぶことが多かったです。自分の事業所での課題について今日聞いた事例を重ね合う部分もあったので、自分の事業所に持って帰って、これから考えていこうと思いました。
- 現場の生き活きとした実践を聴くことができ、力をいただいたように思います。自分の職場だけの知識でなく、他の分野での活躍を知ることは視野を広げる機会になりました。
- 実践、研究、様々な切り口からの発表、とても勉強になりました。プチ講義的で得した気分でした。
- 誰でも参加できる場所、実践事例を伺えたところ、無料、土曜日開催、日頃勉強会や学習会など苦手な私ですが参加しやすく、また勉強になり大変良かったと思います。
- 分科会は時間内に効率よくまわるようになってよかったです。
- まるごと学会はとても満足です。『よかったなぁ』と思いながら遠路を帰ります。ありがとうございます。
- 県内で活躍されている多くのソーシャルワーカー



について実践を知ることができ、またこれからの理論と実践がとても大切だと改めて感じました。

アンケートから② (記念・鼎談)

- 社会福祉士として社会に貢献できることとして、自己のスキルアップをしていくことが大切ということを再認識しました。
- 社会福祉士の団体として転換期、これからの期待が強いこと。自分自身を磨くこと、研修していく事が日々活かされる社会により目を向けていくことの大切さを感じました。
- 今後、社会福祉士を目指していくのに大切なことは何なのか、考えていくようになり、実践的な社会福祉士を目指したいと思いました。

平成28年度 定時総会

定時総会は、学会終了後、長野大学リプロホールにて開催。議長に森田靖子会員を選出し議事に入り、

- ①平成27年度決算、②理事の選任、③理事及び監事に対する報酬等支払規則の制定、④委員会設置規則の制定、⑤規則の一部改正の5議案を原案と承認しました。



広報編集委員会

第1分科会（主に高齢者支援）

- 研究発表「担当ケアマネジャーの交替を申し出る権利は誰にあるのか？」
（中野 純）
- 実践報告「高齢者クラブ補助金助成事業の現状と課題」
（伊藤 浩志）
- 実践報告「経済的虐待・ネグレクトが認められた高齢者が、適切な環境下で生活できるまで」
（和田 健太郎）
- 実践報告「認知症の独居高齢者の支援を通じて学んだこと」
（花川 あづま）

◎発表や質疑応答を通じ、自らの職能や事業の役割の説明を工夫すること、情報収集や横のつながりを広げる大切さ、多くの支援者や事業者間で連携をとって「パーソン・セントアド・ケア」を行うことの重要性などが協議された。

第2分科会（主に障がい者支援）

- 実践報告「福祉事業所サービス利用を考える」
（勝又 小百合）
- 実践報告「重度神経難病利用者の生活を支え、家族に寄り添った支援の経過 ～そして施設生活に限界を迎えたとき～」
（木島 美佐子）
- 実践報告「特別支援学校卒業後の重心障がい者の生活支援の課題～Aさんの事例から学ぶ～」
（林 裕子）
- 実践報告「親と同居する知的障がいのある利用者の、将来に向けた今後の支援について」
（竹内 雅智）

◎4名の実践報告には、「地域のなかで支える」をキーワードに様々な課題があがった。大切なことはその人に寄り添う支援を行い、ご本人・家族がこころから思える幸せにつなげていくこと。そのために必要な医療ケアや制度、社会資源を開拓すること、連携して生活を支える仕組みを築くことが大切であると発表者より実践報告があった。

第3分科会 （主に児童・教育推進）

- 実践報告「学習塾と地域の居場所づくりの場と融合」
（齋藤 百合子）
- 実践報告「子どもの現状とスクールソーシャルワーカーの課題」
（宮崎 貞子）
- 実践報告「地域包括支援センターとしての家族支援への取り組み」
（有田 和美）
- 実践報告「社会福祉士事務所の実践と課題」
（塩原 賢一）



◎4名の研究発表と実践報告を通じ、地域及び他分野・他機関と連携して支援することの重要性、スクールソーシャルワーカーの啓発活動（スクールカウンセラーとの違いなど）や活用法、専門性を高めていくために必要なことなど、様々な課題について活発な意見討論が行われた。

第4分科会 （主に地域福祉推進）

- 実践報告「生活保護における貧困の罅への課題と支援」
（新保 賀朗）
- 実践報告「高齢者が安心して暮らせる地域に向けて～健康教室の実践から～」
（佐々木 俊介）
- 実践報告「地域の課題にどう向き合うのか？ 介護保険事業所が長野市第3次地域福祉計画にどう関わる？」
（小林 俊之）
- 実践報告「熊本地震支援活動報告～専門職と連携したボランティアセンターと福祉救援のあり方について～」
（山崎 博之）



◎この分科会では"つなぐ"をキーワードに進められた。生活困窮者を適切な機関に確実につなぐファシリテーター的な役割の必要性。健康教室の参加者との対話の中で、分かりやすい言葉を選択しながら住民のニーズを引き出して実践について。いつまでも住み慣れた地域で暮らせるよう、支援するために立ち上げた介護保険事業所ネットワーク。災害で被災した福祉職へのアプローチやコーディネート、また家に帰れない住民に対して、福祉職や他業種、ボランティアがいかに連携して支援するか、などの実践報告があり質疑応答も活発に行われた。

第5分科会（主に権利擁護推進）

- 実践報告「成年後見支援センターの取り組みから見たこと」
（比田井 直樹）
- 実践報告「成年後見制度と意思決定支援」
（小高 朗）
- 研究発表「権利擁護人材育成・活用のための都道府県の役割と事業化に関する調査研究」
（三村 仁志）
- 研究発表「上伊那圏域における成年後見センター設置と成年後見事件申立件数の関係及び今後の成年後見制度のあり方について」
（矢澤 秀樹）



◎分科会開始より30人ほどの聴衆がいたが、気が付くと満席で、立ち見の方がいるほどの盛況ぶりだった。発表は、権利擁護の現状やこれから期待される市民後見人について、意思決定支援のありかた、そして、実際支援した時の事例検討と幅広いものだった。フロアからの質疑も活発で、時間が足りないほどで、権利擁護に関わっている人だけではなく、これから関わる人にも、とても興味深い内容の発表だった。

記念鼎談 『社会福祉士・社会福祉士会の未来を語る』

会員は1,000名を超え、本年4月より公益社団法人に移行した長野県社会福祉士会。専門職として「実践を言葉で伝える力」を高め、さらなる公益事業を展開していくために、3名の社会福祉士会関係者から記念鼎談をしていただきました。



◇ 松山茂樹氏

日本社会福祉士会副会長
認定社会福祉士認証・認定機構理事
新潟医療福祉大学学科長



公益法人に移行されたことに敬意を表したい。「脱皮しない蛇は死ぬ」という名言があるが、社会の要請に応えていかなければならない。今までも長野県社会福祉士会は先駆的な取り組みをしてきた歴史がある。これからも叱咤激励し、実践を具現化する存在であって欲しい。

社会福祉士は自ら解決するだけではなく、多職種や他機関へつなぐ・ソーシャルアクションを起こすことも必要。また高齢・障がい・児童など分野を問わず、全世代を対象にする地域包括支援も求められている。スペシフィックのみならず、ジェネリックな力量が求められている状況から、今後、認定社会福祉士が増えていくことが望ましい。



◇ 中村英三氏

長野大学学長
前本会・理事

今年長野大学は、50周年の節目になる。それぞれの現場で卒業生の就職先や実習生の受け入れをしていたいただき感謝申しあげる。

学生には目的をもち入学する学生と資格を取得しておこうという二択になる。いずれにしても学生には職業選択の一つとなる。卒業後には資格を活かしながら組織を調整・引っ張っていけるようなリーダーとして成長してほしい。自分自身がやりがいを見つけてほしい。そのために教育現場として、理論と現場の実践をつなげていく。

大学の役割として、将来的に生涯学習の場をつくっていただけたい。また社会福祉学部をいかにして地域貢献できるのか考えていきたい。そして社会福祉士が社会的に認知されるようさらなる発信と、ますます発展し、教育現場としての責任を果たしていきたい。



◇ 宮島渡氏

日本社会事業専門職大学院特任教授
アザレアンさなだ総合施設長
元本会・会長

長野県社会福祉士会は、社会福祉基礎構造改革などによる変革期において、社会福祉士が社会的認知度を高め、責任を全うするために任意団体からの脱却と法人格の取得を目指した。公益社団法人となり、ますます会員の役割は責任が伴っていく。

私たちは当事者の代弁者になろうとするが、果たして「声なき声に応える支援」をしてきたであろうか。専門職として、既成概念に囚われず、事実に向け、その背景を洞察し、複雑に絡み合った問題を多職種、他機関で共有し当事者を中心とした問題解決手法で取り組む必要がある。

自分磨きがより良い支援や組織、システムを生み出す。それを支えるのが県社会福祉士会である。県社会福祉士会が長野県にとってなくてはならないものとして確立することを期待したい。

長野県社会福祉士会・四半世紀 No.5 (2013年～)

2013年 9月
8月
10月

- 一般社団法人長野県社会福祉士会に移行・登記
- 正会員1000人突破
- ながの社会福祉士会NEWS No.154号
会員1,000人達成 識者からのメッセージ特集

No.1 (1992年)～4 (2013年)は、
ホームページをご覧ください

長野県社会福祉士会員 1,000人達成おめでとうござります

長野県知事 阿部 守一



このたび、長野県社会福祉士会の会員が1,000人を超えられましたことに対しまして、心からお祝いを申し上げます。

社会情勢の大きな変化の中、長野県における福祉の向上と権利擁護の推進のために、社会福祉士の専門性と会員相互のネットワークを活かした貴会会員の第一線での御活躍、御尽力に厚く感謝申し上げます。

県といたしましても、皆様と手を携え、安心・安全な暮らしと、誰にでも居場所と出番がある社会づくりをめざして取り組んでまいりますので、今後とも一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

長野県社会福祉士会のさらなる御発展と、会員の皆様方の益々の御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

阿部長野県知事には、H24年5月社会福祉士会設立20周年記念公開セミナーで、来賓挨拶とパネルディスカッションでご提言をいただきました

1000人突破
おめでとう
医師・作家 鎌田實



社会福祉士会には力があ
ります。

長野県の介護をよくする
力があります。

ハンディを持って生きづ
らい人々の、力になってあ

げてください。

弱い人々の力になってあげてください。

みなさんのなかには力が隠れています。

会員が多くなると、

力はさらに増していきます。

期待しています。

ますますの発展を祈ります。

鎌田實 医師・作家には、H7年1月第3回日本社会福祉士会全国大会（諏訪市で開催）及びH24年5月社会福祉士会設立20周年記念公開セミナーで、記念講演をしていただきました

<メッセージを寄せていただいた方々>

- 大橋謙策（日本社会事業大学元学長）
- 市川一宏（ルーテル学院大学前学長）
- 神田織音（講師）
- 池田恵利子（あい権利擁護支援ネット代表）
- 田下佳代（長野県弁護士会長）
- 熊谷 健（長野県司法書士会長）
- 白澤政和（大阪市立大学名誉教授）
- 橋本正明（認定社会福祉士認証・認定機構長）
- 高橋卓志（長野県NPOセンター前代表理事）
- 山本譲司（作家・元衆議院議員）
- 戸田雅博（リーガルサポートながの支部長）
- 畠山仁美（長野県介護福祉士会・会長）

2014年11月

- 長野市第3次地域福祉計画策定支援業務受託

2016年 4月

- 公益社団法人長野県社会福祉士会に移行・登記
- 虐待対応専門職チーム派遣 県弁護士会と協定締結
- 児童虐待・DV24時間ホットライン業務受託（長野県）
- 6月 ○平成28年度福祉まるごと学会 公益社団移行 記念鼎談『社会福祉士・社会福祉士会の未来を語る』
 - ・松山茂樹氏（日本社会福祉士会副会長）
 - ・中村英三氏（長野大学学長）
 - ・宮島 渡 氏（日本社会事業専門職大学院特任教授）

知っていますか？



長野県社会福祉士会の委員会 広報編集委員会

広報編集委員会は、会員と県民の皆さまに、長野県社会福祉士会の事業や研修等の案内や事業の報告、福祉の現状・課題・提言等を発信するため、広報紙の発行、ホームページと「一斉メール」(会員限定)の運用、当会をPRするパンフレット作成をしています。社会福祉士を身近に感じていただけるよう、創意工夫し迅速な情報発信に努めています。

☆ホームページリニューアル

平成28年5月末に大幅な更新を行いました。公益事業の情報発信、各地区開催の学習会のほか、会員向けには、各種様式などを掲載しています。『長野県社会福祉士会』で検索してご確認ください。会員の方には「会員専用ページ」ログインID、パスワードのチラシを同封しましたので、ご確認ください。



「役立ち興味を持ってもらうには…」
委員会では特集のテーマを話し合います

☆パンフレット作成 2パターン

- ◎会員向け(研修体系等が掲載されています)
 - ◎県民の皆さまへ(社会福祉士の仕事がわかりやすく解説されています)
- *いずれもホームページからダウンロードできます。

☆(会員向け)一斉メール

研修や学習会の開催や、社会福祉士の求人情報等を配信しています。未登録の会員は、ぜひご登録ください！情報がキャッチできるかも。
*登録希望は事務局にご連絡ください。

- ☆紙面やホームページの充実を図るために、今後とも会員の皆様への取材・寄稿にご協力をお願いします。
- ☆広報全般に関して、ご意見・ご要望があればいつでもお寄せください。

広報紙

☆ながの社会福祉士会NEWS 発行

長野県社会福祉士会の創立当初から発行している広報紙で、今号で第155号となります。現在は、会員と県内の社会福祉関係機関あてに、計2,200部を年6回のペースで発行しています。

今年度の発行計画(各1日発行)

平成28年7月・9月・11月・平成29年1月・3月

紙面構成

本会のうごき、福祉分野の現状や課題、セミナー・研修会・学習会レポート、特集(会員紹介)、ぐるっと信州(特色ある福祉活動紹介)、その他

今年度の広報編集委員会方針は…

- ◎楽しく！わかりやすく 社会福祉士の専門性が県民の皆さまに伝わる広報紙
- ◎一人でも多くの会員の取材や寄稿を掲載し、地域で活躍する社会福祉士を紹介します。



取材でお会いしましょう！

歴代広報紙を手に…
平成27年度・28年度の広報編集委員です。

「新入会者さん、いらっしゃ〜い」



所属：NPO法人 峠茶屋

地区：中信地区

氏名：河西 誠

好きな言葉：「ありがとう」です。

ありふれた言葉ですが、人に言われて嬉しいだけではなく、私自身も人に感謝しながら生きていた

方が幸せだと感じます。また、日常の行動の指針として社会への還元を考えていますが、その基準を「ありがとうをいかに産み出すか」としているからです。

① 社会福祉士を志した理由

当時の私は理系出身で電機メーカーの管理系の仕事をしていました。一方で私の妻の実家ではNPO法人を設立して家族経営的な介護事業所を営んでいます。全く違う業界ですが、将来的に福祉に転向し一緒にやっていく可能性が高かったため、当時の仕事を続けながら通信制大学で社会福祉士を取得しようと考えました。勉強している事は会社の人にはあまり大きな声では言えず、前半の学科は孤独に勉強していましたが、後半のスクーリングでは情熱的で楽しい仲間とたくさん出会えてとても有意義な期間を過ごす事ができました。

② 現在の仕事の内容

小さな複合介護事業所で総務・事務をやっています。理事長と二人で介護職・看護職などの専門職以外の業務をほぼ対応する、というイメージになります。どんなに小さな会社でも会社である以上一通りの業務がありますし、介護・医療保険事業を6種類やっているのが官公庁への提出物にも追われています。何でも屋ですが、広範囲の事が見えて経験できるため、とても勉強になるやりがいのある仕事だと思います。

③ これから挑戦したいこと

何かのビジネス書に「これからやりたい事を100個以上書き出してください」というお題があり、実際に書き出してみました。それを眺めてみた所、あまりに飛躍していて恥ずかしいので秘密です。(笑)



所属：社会福祉法人

泰阜村社会福祉協議会

特別養護老人ホームやすおか荘

地区：南信地区

氏名：有賀 圭吾

好きな言葉：「点と点が線で

繋がる」

スティーブ・ジョブズさんの有名な言葉です。社会人になってこの言葉を実感することが多く、人生全て勉強なんだと感じています。

① 社会福祉士を志した理由

私の両親共に医療関係者であり、そんな環境で育ったため、幼少の頃より自然と医療福祉分野に興味を持っていました。また、人と関わる事が好きであったため相談援助の専門職である社会福祉士を志していったと記憶しております。ですが大学生活での人との出会いがあり一旦は一般企業の営業職として就職しましたが、社会福祉士として直接誰かの役に立ちたいという思いは消える事は無く、5年間の勤務を経て転職し現職に至ります。

② 現在の仕事の内容

現在は社会福祉法人泰阜村社会福祉協議会の特別養護老人ホームにて生活相談員として勤務しております。利用者様からの相談は勿論のことご家族からの相談や利用契約、また送迎や利用者様の状態説明や看取りに向けての意思確認等、その業務は多岐に渡ります。相談員として利用者様59名に対して1人で関わるため、とても慌ただしい毎日ですが、ミスを少なく関わる方から少しでも信頼を得られるように日々奮闘しております。

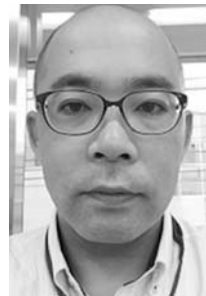
③ これから挑戦したいこと

私は資格を取得してから長く別の業界で仕事していたため、社会福祉士としての知識や経験が全くありません。よって研修等に積極的に参加し、勉強をすることで、遅れを取り戻せればと思っております。

社会福祉士試験、合格おめでとうございます。また、長野県社会福祉士会へご入会いただき誠にありがとうございます。私たち先輩会員は同じ志をもつ仲間との出会いを心待ちしておりました。本号では入会1～2年目のフレッシュな会員の皆様から、社会福祉士を志した理由や現在の仕事の内容、これから挑戦したいことについて聞かせていただきました。



所属：岩村田・東地域包括
支援センター
地区：東信地区
氏名：青木みなみ
好きな言葉：「会うべき時に
会うべき人に会うべくして会う」



所属：社会福祉法人
長野市社会福祉協議会
地区：北信地区
氏名：小野貴規
好きな言葉：「適当」です。
“手を抜く”という意味ではなく、
程よくちょうどいいという意味で。

① 社会福祉士を志した理由

広く福祉の知識を一から学んで自信を持って仕事ができればと思い、いろいろな資格がある中で、社会福祉士という名前に惹かれたからです。

② 現在の仕事の内容

社会福祉士としての専門的な業務はまだまだ経験が浅いため、ベテランの先輩と一緒にケースに関わっています。地域包括支援センターの三職種のうちの一職種である社会福祉士としての専門的な業務の他には、基本的に65歳以上の方への生活全般に対する困りごとへの相談に関わったり、地区のサロン等、地域に伺って住民の顔を知り、つながりづくりもしています。

③ これから挑戦したいこと

利用者さんやご家族をはじめ、関係する施設や事業所など、多くの方たちとのやり取りでスムーズに事柄が進むことが多いので、情報共有を心がけて、自分なりのネットワークを広げていけたらと思います。また、社会福祉士としても経験を積んでいければと思います。

また、絵を描くことが好きなので、どこか綺麗な所へ旅に出て、心を休めつつ絵を描こうと思います。



① 社会福祉士を志した理由

当時、ボランティアコーディネーターをしていたのですが、日々の業務の中で経験や感覚だけで何となく行っている部分が多く、どこか据わりが悪いというか、自分の実践に根拠がないというか、そんなところに疑問やら不安やらがあったのがきっかけです。

また、業務範囲や自分の知識不足からうまく支援につなげられないこともあったため、資格を取得することで幅広く相談に応じることができるのではないかと思います、志しました。

② 現在の仕事の内容

現在は長野市社会福祉協議会に勤務し、「長野市生活就労支援センター まいさぼ長野市」で生活困窮者自立支援法に基づく相談援助業務をやっています。単に経済的な困りごとだけでなく、さまざまな生活面の課題を複合的に抱える相談者をまずはワンストップで受けとめ、寄り添いながら一緒に考え整理し支援につなげていく、そんな仕事です。社会福祉士ならではの幅広い知識と専門性が発揮できる仕事なのかなと思います。

③ これから挑戦したいこと

援助者として、社会福祉士として、まずは日々の相談を丁寧に受けるとともに、もっともっと地域とつながり、巻き込み、いろいろなアイデアを活かしながら支援の可能性・輪を広げていきたいです。

個人的には、運動をしようと言ってもう何年だろう…。

寄稿者の皆さまの今後のご活躍に期待していきましょう！

資格取得はゴールではありません。専門職として研鑽し合い、ソーシャルアクションを起こしていけるよう、今後もご入会を心よりお待ちしております。

信州ぐるっと!!

「NPO法人 生活応援ネットスキップ」

～困っている高齢者、一人暮らしの方を応援したい～

スキップは2011年5月に特定非営利活動法人として法人格を取得しました。スキップの立ち上げに参加した皆さんは、40代から70代までの元気なシニア世代の方々です。定年退職された元会社員、元車掌や市職員、会社員、主婦ら意欲ある方で、経験や豊富な知識を持ち、困っている方の役に立ちたいと願う人たちの集まりです。



今一番力を入れているのが、生活応援事業です。介護保険・関連支援制度等の関係制度・仕組みでカバーできないサービスの要望や生活上の援助など、たくさんの希望が高齢の方、障がいの方々からあります。例えば、買い物代行、通院や買い物、掃除洗濯、草取り、庭の手入れ、日曜大工、ゴミ出しなどで、有償サービスとして行っています。また地域柄、買い物困難者支援・外出支援・移動支援として福祉有償運送サービスもしています。タクシー料金の半額以下の料金設定で、様々な用途にご利用いただけることで低所得者から好評です。

需要が高いのが病院への移送です。今後も日常生活上の不安を解消するために、ご近所目線でお手伝いをする取組みを行っていきます。
(ホームページを参照してください) (南信地区 熊谷龍司)

レポート!! 私の地区の学習会

上小・佐久地区 高齢者部会では5月28日に川端恵美社会福祉士を講師に迎え、介護保険改定と日常生活支援総合事業をテーマに学習をしました。

御代田町は長野県で最初に総合事業に取り組んでいます。予防プランは対象者が4倍にもなり、仕事量が大幅に増大しましたが、地域包括支援センターの総合相談を中心に据え、頑張ったそうです。住民のサポーター養成も10年の歩みがあり、目下、福祉有償タクシーの実用化に向け準備中など示唆にとんだお話をうかがえました。

川端さんの「相手に興味を持ち、自分の中に確たるものを持って」パワフルに活動している姿に感動しました。出席者からも質問や意見を出し合い、学びを深めることができました。(東信地区 宮澤初恵)

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<https://nacsj.jp/>) をご確認ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
7月8日(金)	高齢者虐待対応研修(第2回)	長野県総合教育センター	③7/12
7月23日(土)	災害福祉支援フォーラム	長野県看護センター	
7月23日(土)	基礎研修I(第1回)	安曇野市豊科ふれあいホール	②10/30
7月30日(土)	実習指導者講習会(第1回)	長野大学	②7/31

◎入会状況(平成28年4月末現在) *会員数:1,045名(男性会員:474名 女性会員:571名) 入会率:30.81%

編集後記

私が暮らす諏訪地域では、4月～5月中旬まで7年に一度の天下の大祭「諏訪大社御柱祭」がありました。御柱祭は数十万人の観衆や氏子で賑わうため、昔から「人を見るなら諏訪の御柱に行け」と言われています。私は柱を曳いたり、長持ちを担いだりして参加しました。そして御柱祭が終わると、夏の終わりから秋にかけて各地で「小宮祭」があります。諏訪地域の各地にある諏訪大社ゆかりの神社はもちろん、直接関係のない神社でも御柱を曳いたり、建てたりします。小宮祭は地域色が豊かで楽しさ満載です。私も参加します! 興味のある方は、ぜひ諏訪地域へお越しください!(R. M.)